

会長あいさつ

A greeting from President of Okayama Association for Laboratory Animal Science

樺木 勝巳

Katsumi Mominoki

岡山大学自然生命科学研究支援センター動物資源部門

Department of Animal Resources, Advanced Science Research Center, Okayama University

本年 1 月より岡山実験動物研究会の会長を務めさせていただくことになりました岡山大学自然生命科学研究支援センター動物資源部門の樺木勝巳です。会長就任にあたりご挨拶を申し上げます。これまで主として所属先が会員となっている国立大学法人動物実験施設協議会において施設の代表として活動してきました。この経歴からもおわかりになるように私の日々の活動の中心は、岡山大学にある三つの動物実験施設の管理・運用及び動物実験委員会の実務並びにその他動物実験に関する事柄であり、動物実験に関するマネジメントです。地方会とはいえ研究会の会長の任は荷が重いという思いもありますが、国枝前会長をはじめ歴代の会長とはやや異なったカラーが出せるのではないかと考えております。

具体的には、本会を現場レベルの動物実験技術の伝達の間としても活用するというを考えています。本会の目的は、会則にあるように「実験動物及び動物実験についての知識の交流をはかり、あわせてこれらの関連領域の進展に寄与する」ことです。すなわち、私のミッションは、歴代の会長と同様、本会を交流の場として維持し、動物実験を共通項としている分野の発展に貢献することです。これまでは学術集会や講演会等の開催、会誌等の刊行を通じてこの目的の達成を図ってきました。しかし、最近、これだけでは不十分であると感じさせる事例を目にいたしました。岡山大学は、毎年、多くの留学生を受け入れておりますが、日本に来て初めて実験動物に触れるという方が少なくない数おられます。そのためにラットに注射麻酔薬を投与するのにジエチルエーテルで不動化させるという動物実験計画書に遭遇するわけです。

皆様もご存知のように本会の共通項である動物実験は、医学、歯学、薬学、理学、農学などをはじめ多くの研究分野において欠くことができない実験系です。使用される実験動物種

は、動物愛護管理法の規定に当てはめると一般的に考えられている動物種よりはるかに多くの種が対象となります。しかし、動物実験・実験動物に関する専門教育は、岡山大学では農学部で実施されているのみです。その他の学部・研究科において専門教育内で体系づけられて実施されているとは言い難く、学生の多くは、所属した研究室において独自に発展した手法を身につけて動物実験に臨んでいるといえます。これは本学に限らずほとんどの大学や研究所でも同様の状況にあります。乱暴な言い方をすると、日本の動物実験の実施者の多くは、口伝レベルで伝達された手法を用いて実験動物を取り扱い、動物実験を実施しているわけです。その伝達路が破綻した場合、前述した留学生が行う動物実験計画と同様のことが、日本の学生にも当てはまってゆくのではないかと危惧しています。

このような状況を改善するために岡山大学では私の動物資源部門が中心となって公益社団法人日本実験動物協会認定の実験動物技術者（指導員及び一級技術者）、すなわち、技術レベルが標準化されている技術者による講習会を開催しています。そして、昨年、試行として本会の後援を受けた講習会を設け、岡山大学外の地域の方々に開放いたしました。2019 年には、本会后援の講習会として前述の講習会に加え、重井医学研究所の松山誠会員による GONAD 法によるゲノム編集マウス・ラット作成法の実技講習会を企画しています。このように国枝前会長が就任の挨拶時に掲げられておられる考え方も踏襲しつつ、プラスアルファとして私の経験に裏打ちされた方策を取り入れ、本会を盛り立ててゆきたいと思っております。まだまだ経験不足の感は否めませんので、どうぞよろしくお願い致します。